

教育広報

県北の教育

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市杉妻町2番16号

電話024-521-2813

発行者 長谷川 浩文

巻頭言

SDGsと学校教育

県北教育事務所 業務次長兼学校教育課長 丹治 光夫

最近、よく耳にする言葉にSDGsがある。「Sustainable Development Goals」の略で「持続可能な開発目標」と訳される。世界から貧困をなくすことと、持続可能な社会・経済・環境をつくることを目標とするもので、17のゴールと169のターゲット、232の指標によって構成されている。実現される期限は2030年であり、「誰一人取り残さない」ことがうたわれている。

現在、地球的規模で起こっているコロナウイルスの感染拡大の中、SDGsの概念と学校教育との関連について考えてみた。

SDGsが国連で策定されたのは2015年9月25日であり、SDGs単独での採択ではなく、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」に含まれる形で採択された。

前述したようにSDGsには17のゴールがあり、5つのグループに分類されている。ゴール1～6は人間（People）について、ゴール7～11は繁栄（Prosperity）について、12～15は地球（Planet）について、ゴール16は平和（Peace）について、ゴール17はパートナーシップ（Partnership）についてであり、それぞれの頭文字から「5つのP」と呼ばれている。

特にゴール4は教育に関する内容で、「すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する」とうたわれており、すべての学習者が持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにとある。

ゴール9は「強くしなやかなインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進をはかる」という目標であり、科学技術イノベーション（STI）との関連が大変重要視されている。Society5.0を生き抜く子どもたちに対して確かなメディアリテラシーを育成しなければならない。

ゴール13は「気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる」という目標である。地球温暖化や異常気象に対する構えや備えに対する方策について検討が急がれる。また、このゴールについて特筆すべきは、スウェーデンの若き環境活動家グレタ・トゥーンベリ（2003年1月3日生）の発言である。2019年の国連総会において意見を述べるなど危機意識を強くしている。我々大人たちも熟考しなくてはならないと考えさせられた。

一方、学習指導要領に目を向けると、その前文には、「一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに……豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とある。

今、世界中はコロナ禍で大変な時であるが、やがてくるアフターコロナの時代に生きる地球人として、持続可能な社会・経済・環境の構築に向けて努力していく人材育成そのものが、学校教育に関わるものの使命であると思えてきた。



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

令和2年度第49回福島県教職員研究論文表彰式

今年度、県北域内では5点の応募がありました。いずれの論文からも、先生方お一人お一人が、自校の課題をしっかりと捉え、目的意識をもって日々の教育活動に真摯に取り組まれている様子がうかがえました。受賞、応募された個人団体は次のとおりです。

- 【特選】** ◇共同研究 学習指導 福島市立森合小学校 (代表) 校長 野木 勝弘
 <目的を實現するために、必要感をもって学び、未来を拓こうとする子ども>
 ~教科横断的な視点で組み立てた単元の開発・実践を通して~
- 【入選】** ◇共同研究 学習指導 伊達市立保原小学校 (代表) 校長 堀部 誠
 <課題に主体的に取り組み、協働的で深い学びを實現する子どもの育成>
 ~全体学び合いの充実と学びの連続性を生かした授業づくりを通して~

<応募者>

- ◇個人研究 学習指導 川俣町立川俣中学校
 (保健体育科) 教諭 菅野 弘和
- ◇個人研究 学習指導 二本松市立渋川小学校
 (図画工作科) 教諭 齋藤 史則
- ◇グループ研究 特別支援教育 福島県立大笹生支援学校
 (カリキュラムマネジメント) 教諭 富田 篤
 教諭 白土 浩二
 教諭 平野真実子
 教諭 二階堂俊介



「(県北版)学校教育指導の重点」の活用を

先生方の悩みに応える指導資料を作成しました。授業改善に御活用ください。 **【社会科の例】**

【中学校第3学年「現代の民主政治と社会 裁判員制度と司法制度改革」】
 【学習課題】なぜ裁判員制度が導入されているのだろう。
 【ペアやグループ・学級全体での話し合い】

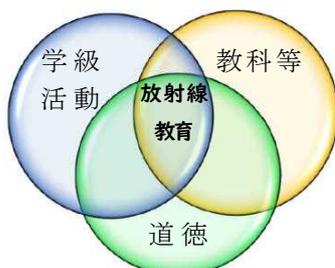
被告人は有罪?無罪? 思考や理解を促す問い返しやゆさぶりをかけましょう。
 証言が認められるので「被告人未遂罪」になるんじゃないかな? 故意は認められないから、傷害罪が適用されると思うけれど。
 被告人は被害者に対してけがを負わせているので有罪は免れないね。では、罰金を与えるのとどのくらいの刑期が妥当だろう?
 殺人罪の「最低懲役5年」の半分くらいを適用して2~3年が妥当ではないのかな? 積状を酌量して、執行猶予を付けた判決が妥当だと思うな。
 執行猶予は判例や判官の助言から3~5年が妥当じゃないかな?
 裁判のしくみを知ることや疑似体験をすることが目的ではありません。「裁判員制度」と国民の政治参加を結び付けることが大切です。同じ判決にならないことに疑問を感じさせるとともに、なぜ専門職である裁判官と一緒に国民が裁判を行うのか、本質の部分を生徒に考えさせていきましょう。
 同じ事案を扱っているのに班によって判決が違っているね。裁判官(専門)に任せればいいのかどうして裁判員制度が導入されているのだろう?
 市民感覚に近いからこそ公正じゃないかな? 国民の政治参加の一つになっていると思うよ。国民の権利が守られることにつながるね。
 多様な意見をもとに公正な裁判になるように考えられているんじゃないかな?
 【まとめ】国民の視点、感覚が反映されることにより、司法に対する国民の理解が深まり、信頼が高まる。

【まとめ・振り返り 新たな学び】 本時の学びの価値付けを行い、実感を伴う理解につなげていきましょう。
 難しい裁判に国民が参加するしくみがなぜ導入されているのか、本時の学習で感じたことやとらえた意義をまとめましょう。

地域と共に創る放射線・防災教育推進事業

本宮市立白岩小学校は実践協力校2年目です。本年度は「教科等横断的な視点による資質・能力の育成と活用を通して」のテーマのもと、研究に取り組んでいます。「放射線教育」の視点を取り入れたカリキュラムマネジメントを効果的に行い、教科等横断的な授業づくりを全教職員で行っています。授業実践をもとに可視化したオイラー図(下図)は参考になります。実践発表では、放射線教育の視点を取り入れた地域防災の授業や保護者参加型の発信性のある授業づくりが見られました。

子どもが主体的に考え、判断する姿から、健康で安全な生活を送ろうとする意欲の高まりが見られました。

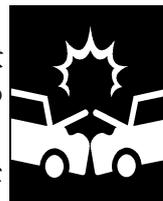


◆不祥事、学校事故・教職員事故等の減少のために◆

「不祥事」「学校事故・教職員事故等」の減少を重点事項に掲げ、市町村教育委員会との連携のもと、各学校に実効ある取組をお願いしてきました。管理訪問等を通して、コロナ禍においても各校が不祥事を出さないように服務倫理委員会などの機会を利用して、職員一人一人の心に響くように取り組んできたことを知ることができました。しかし、残念ながら、県北域内においては運転免許証が失効状態で通勤していた事案が2年続けて発生し、また、不注意による交通加害事故、教職員の言動に対する苦情などがありました。さらに、県内において、昨年度に引き続き18歳未満の者に対するみだらな行為による不祥事が発生しました。年度末を迎えるこの時期、本域内の状況から特に次の2点に留意し、職員一人一人の危機意識の高揚に努めていただくようお願いいたします。

■交通事故の防止について

12月中に積雪があるなど、交通状況に注意を要する日が続いています。一層気を引き締めてハンドルを握ってほしいと思います。今年度発生した事故のほとんどは、周囲の状況をよく確認せずに「大丈夫だろう」と思い込んだり、ボーッとしたりしたことが原因の追突事故です。それらの事故は、運転者の心がけ次第で防ぐことができたのではないかと思います。天気予報を確認してゆとりある出勤を心がけることや、疲労を翌日に残さない勤務体制について、各校で実践をお願いします。



■忙しいときこそ職員間のコミュニケーションを

年度末は、進級や卒業など、教職員はもとより、児童生徒及び保護者にとっても、節目となる大切な時期です。大切な時期だからこそ忙しくなります。忙しくなると、子どもへの指導に配慮を欠く言葉を使ってしまう傾向があります。また、子どもが傷ついたり落ち込んだりする様子に教師が気付くことができない事例もあります。忙しいときこそ、子どものちょっとした変化に気を配り職員室等で話題にすることが大切です。先が見通せず苦しい毎日ですが、日ごろすべきことに対して、声を掛け合いながら、きちんと実践していくことで忙しい年度末を乗り切ってほしいと思います。

地域でつながる家庭教育応援事業「家庭教育支援者地区別研修」 R2.11.19 於：県青少年会館

県北域内の家庭教育の課題として、子ども・保護者双方の自己肯定感の低下が挙げられています。こうした現状を踏まえ、家庭教育支援者の実践力を高める目的で、明日飛子ども自立の里 理事長 清水国明氏を講師にお迎えし、本研修を実施しました。

参加者は講話と演習を通して、自己肯定感を育む具体的なアプローチについて学ぶことができました。

～この想い^{あす} 未来へとつなぐれ 十七字～ ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

「十七字のふれあい事業」は、今回で19年目を迎えました。今年度、県北域内では3,625点の応募がありました。どの作品も、心温まる素晴らしい内容であり、子どもたちの未来への希望の想いが感じられる作品ばかりです。県北域内の入賞作品をご紹介します。

- | | | | | |
|--------|--------|-------------------|-------------|--------|
| 【最優秀賞】 | 「復興部門」 | 十年後 笑顔で食べる 桃りんご | (福大附属中学校1年) | 鹿俣 芽生) |
| | | 安心と おいしさ伝え 子と食べる | (母) | 鹿俣 敬子) |
| 【優秀賞】 | 「絆部門」 | 父さんの おなかの私の まくらです | (上保原小学校1年) | 水口 麗花) |
| | | 幸せは 寝ている隣の 子の寝顔 | (父) | 水口泉太郎) |
| | 「復興部門」 | ゆめ見ばし 歩いて高く ゆめつづく | (半田醸芳小学校2年) | 田中 彩瑛) |
| | | 相馬まで 続くよ架け橋 夢見橋 | (母) | 田中 良子) |
| 【佳作】 | 「絆部門」 | ぬい糸で 母のまねする 玉結び | (玉井小学校5年) | 渡辺 美海) |
| | | ぼたん付け 母の裁縫 思い出す | (母) | 渡辺絵美子) |
| | 「復興部門」 | 福島の あo笑顔を 取り戻そう | (福大附属小学校5年) | 菅井ひより) |
| | | じい様が 負けでらんにと 苗を植え | (父) | 菅井 謙一) |

学校教育指導の重点全体構想
福島県教育庁県北教育事務所学校教育課



夢をかなえる県北の教育



授業づくりの5つのポイント

- ① 単元をつくる・授業をつくる
- ② 教材との出会い・学習課題の把握
- ③ 追究・解決 <計画・方向付け・見通し>
<個での追究・解決>

④ 追究・解決 <ペアやグループ・学級全体での話し合い>

- 目的を明確にした話し合う場面の設定
- 子どもの考えをつなぎ、広げ、深める
コーディネート

⑤ まとめ・振り返り 新たな学び

- まとめの時間の十分な確保
- 授業と家庭学習との関連



確かな学力

- 主体的・対話的で深い学びの実現
 - ・「授業スタンダード」に基づく授業づくり
 - ・個に応じたきめ細かな指導
- 学習規律・学習習慣の確立
 - ・「家庭学習スタンダード」の自校化
 - ・読書活動の推進
- 組織的な学力向上策の推進
 - ・「学力向上グランドデザイン」の推進・改善
 - ・校内研修の充実、「互見授業」の推進

家庭学習を支える4つの取組

- ① 共通理解を図った指導
 - 家庭学習の手引きの自校化
- ② 授業と家庭学習の関連付け
 - 復習と予習の関連を図る宿題
- ③ 学習内容・方法の指導
 - 「調べ・考え・書く」活用型の宿題
- ④ 協力・連携体制の構築
 - 小学校間、小中学校間での共通理解

質を高める取組

- ① ロングスパン、ショーツパンのR-PCDA
サイクルの確立
- ② 全国学調、ふくしま学調の分析・活用
- ③ 活用力育成シート、定着確認シートの活用

豊かなこころ

- 心に響く道徳教育の推進
 - ・指導内容の重点化
 - ・授業の量的確保、質的転換
 - ・保護者や地域と連携した道徳教育
- ひとと関わる豊かな体験活動の充実
 - ・地域の人や異年齢集団等との交流活動
 - ・勤労観・職業観を育むキャリア教育
- 子ども理解に基づく生徒指導の充実
 - ・いじめ、不登校の未然防止・早期発見
 - ・教育相談の充実(SC、SSW等との連携)
 - ・情報モラルに関する指導

温かな学級 学習集団

- 目標に向かって協力し、
粘り強く取り組む学級・学習集団
- 互いのよさや成長を認め合い、
違いを理解し合える学級・学習集団
- 教師と子どもが信頼し合い、
何でも言い合える学級・学習集団

健やかな体

- 進んで運動に取り組む態度の育成
 - ・運動の楽しさや喜びを実感させる工夫
 - ・子ども一人一人の運動量の確保
- 体力向上のための組織的な取組
 - ・体力向上推進計画の改善
 - ・体育的活動の充実と環境整備
- 健康・安全な生活への指導の充実
 - ・保健・安全指導(感染症への対応)
 - ・望ましい食習慣を育成する食育
 - ・自ら考え行動できる放射線・防災教育

幼児教育の充実

- 発達の時期に適した指導計画の作成
 - ・生活や発達の連続性
 - ・家庭・地域・小学校の連携
- 主体的・対話的で深い学びを実現する
保育の展開
 - ・教材の工夫と環境の構成
 - ・試行錯誤や考える過程の重視
- よさや可能性を見取る評価の工夫・活用
 - ・幼児理解に基づく子どもの実態把握
 - ・見取りに基づく情報交換・意見交換

特別支援教育の充実

- 全教職員による支援体制の充実
 - ・コーディネーターを中心とする支援体制
 - ・校内研修の活性化
 - ・ユニバーサルデザインの視点を生かす指導
 - ・交流及び共同学習の推進
- インクルーシブ教育システムの推進
 - ・「個別的教育支援計画」
 - ・「個別の指導計画」の作成・活用
 - ・進学時の引継ぎ体制の確立
 - ・本人、保護者との合意形成に基づく
合理的配慮の提供
 - ・関係機関との連携



家庭や地域社会、関係機関との連携

- ・家庭の教育力向上を図るPTA活動の充実
- ・地域全体で子どもを育てる地域学校協働活動事業の推進
- ・地域人材、NPO、企業、公民館、図書館等を活用した活動の推進